



学生でない人への 学園祭のすすめ

会員 菊間 龍一 (67 期)

1 「読書の秋」「食欲の秋」「スポーツの秋」と、秋にはいろいろな魅力がある。私は、「文化の秋」の中でも特に、学園祭（文化祭）を強く推したい。わずかに数日間のうちに、何か月もかけて準備してきた学生たちのエネルギーが爆発する。この日常の中にある非日常を体感できる機会は、この時期しかないであろう。

2 皆さんにも、自身の学園祭での思い出が少なからずあるのではなかろうか。

私も高校や大学の頃は、文化祭や学園祭の主催側に携わっていた。大学の頃に至っては、3年生までのほとんどの時間を費やしたと言ってもよい。ひとつのステージ企画のワンシーンを取っても、パフォーマーの登場の仕方はこうした方がいいとか、照明はこのパターンをあちら側から当てた方がいいとか、議論が尽きなかった。また、主催側であるために参加団体との折衝も頻繁にあった。お互い1年に1度きりの機会に向ける強い想いがある。議論が終わらずに何度終電を逃したことが数えきれない。

3 今、冷静になって思い返してみると、なんと贅沢な無駄遣いをしていたのだろうか。

1年に1度きりの企画に向けて、昼夜のほとんどの時間を費やす。何の収益も上がらない企画に、アルバイトで稼いだお金の大半を注ぎ込む。今そのようなことをしようものならば、家族や事務所から白い目で見られることは間違いない。これでもかと時間と想いを詰め込んでできる学園祭というものは、社会人にとってはありえない、学生にしかできない、まさに日常の中にある非日常なのである。

4 ぜひ、その時限りの非日常に飛び込んで、普段目を向けられないものに目を向けてもらいたい。

例えば、焼きそばの屋台ひとつを取っても、それは決して原価百円足らずの焼きそばを300円で売って、

サークルの飲み代を稼ごうというだけのものではない（とりあえずそういうことにしておく）。手作りの屋台の装飾や学生の身に着けている衣装はそれぞれ異なるし、そのひとつひとつの裏には彼らなりの想いがある。時には、どこで見つけてきたのか奇抜な屋台もあり、新たな発見も少なくない。

演劇や演奏といったパフォーマンスとなれば、それこそほんの数十分に彼らの1年間の想いが凝縮されるので、その密度は非常に濃い。連日にわたって練習を積み重ねてきたものが、ついにこの一瞬のために花開く。

展示企画や研究発表では、普段は部室内に籠って行われている研究がこの時だけ日の目を見る。今まで自分の見たことのないものばかりであり、もしかしたら、二度とお目にかかることはできないかもしれない。

5 一見、学園祭は、学生たちの単なる馬鹿騒ぎにしか見えないかもしれない。しかし、そこに込められた学生たちの想いや、見たことのない何かに出会えるワクワク感に思いを致すと、単なる馬鹿騒ぎではないのだろう。

学園祭や文化祭は、決して学生たちだけのものではなく、学生たちが生み出した日常の中にある非日常に私たちを誘ってくれる。

これから10月、11月と学園祭シーズンになる。家族の通う学校や自身の出身校あるいは近所にある学校に立ち寄るのもよいだろう。ぜひ、学園祭に足を運んで、その時限りの非日常の空間を満喫してもらいたい。

